

要旨

1. はじめに

日本の現代社会は多様化、複雑化しており、子どもや家庭を厳しい状況に追い込んでいる。また、教職員の教師文化や学校文化も変化しており、教職員自身も生きづらさを抱えている。その中で、児童の権利条約といった、子どもが有している権利の実現のために、子どもが学校教育の中で一人の人間として、どのように尊重され、大切にされているかというケアの側面を取り入れる必要がある。しかし、日本では教員が学校でのケアをどのように捉えているか明らかにした先行研究はない。そこで、本研究の目的は、教員がケアと認識している働きかけから、教育実践に含まれている学校におけるケアを基盤とした風土の構成要素を明示し、その構造を「社会生態モデル」に基づき明らかにすることである。

2. 方法

小学校、中学校に勤務する管理職、教諭、養護教諭 15 名を対象とし、半構造化インタビュー調査を実施した。分析方法は、テーマ分析と生成されたテーマを既存の理論を用いて解釈をするハイブリットアプローチを参考にした。

3. 結果と考察

テーマ分析の結果、学校におけるケアを基盤とした風土の構成要素は、【子どもが自分らしく生きるために行うセルフケア】【子どもがケアする力を発揮し、共に取り組むケア】【教職員が子どもと向き合い、受け入れるケア】【教職員が子どもの環境を守るケア】【教職員が組織で子どもに関わるケア】【教職員が保護者を尊重し、積極的に関わるケア】【教職員同士が支え合うケア】【教職員が心身を保ち、成長するために行うセルフケア】【保護者が教職員（学校）に理解を示すケア】【保護者が子どもを送り出すケア】【学校が地域につながりを求めるケア】の生成された 11 のテーマから明らかになった。次に「社会生態モデル」に基づいて、学校におけるケアを基盤とした風土の構造を明らかにするために、中心から「子ども」「教職員、学級」「教職員集団、学校組織」「保護者」「地域」の学校の同心円構造を作成し、生成された 11 のテーマを当てはめた。さらに、これらのテーマを、ケアを行っている人物ごとに分け、「子どものケアする力を育む風土」「教職員が子どもや保護者をケアする風土」「教職員のケアに基づいた教師文化、学校文化を生み出す風土」「保護者が子どもをケアし、学校に協力する風土」「学校と地域が共に築き上げるケアの風土」の 5 つの風土に分類し、学校におけるケアを基盤とした風土の構造の中で、関連を明らかにした。

結果から、子どもを含め、学校に関わる全ての関係者が、それぞれの立場で行うケアの働きかけの一端が示唆された。学校を拠点として、子どもや教職員、保護者、地域で、学校におけるケアを基盤とした風土づくりを展開し、実践していくことが求められるといえる。

4. 結論

学校におけるケアを基盤とした風土の構成要素が明らかになった。さらに、社会生態モデルに基づき、子どもが中心となる同心円構造を作成し、学校におけるケアを基盤とした風土の構造を示すことができた。本研究で、ケアという側面から学校の現状を捉えなおし、提示できたことについては、今後の教育の発展に寄与できるといえる。

キーワード：ケア，風土，教員の認識，質的研究